

国語 授業づくり講座 in 香南市立野市中学校

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!

令和5年2月発行
東部教育事務所



東部管内の
講座情報

提案授業

単元名 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」の要旨を把握しよう

単元の目標

- 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア
- 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア
- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

言語活動 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」の要旨を把握し、説明する文章を書く。

~文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係を捉え、要旨を把握する。~

(関連:〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア)

学習材 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 『国語1』(光村図書)

教材研究会② 10月21日

構造と内容の把握			
学習の見通しをもつ力 1 本文を通読する。 ・題名に着目させたりシジュウカラの鳴き声(二次元コード)を聞かせたりして本文を読む目的を明確にしておく。 2 学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ・結論について、筆者が「驚きの発見」をするまでの過程をまとめることを確認する。 3 要旨をまとめるために文章を読む際、着目するとよい点について考える。 ・既習事項を想起させる。 4 本時の振り返りを行う。	段落の役割や段落どうしの関係に着目して、文章の構造を捉える力 5 文章の大まかな構成を確認する。 6 各段落に小見出しをつける。(個人) ・小見出しをつけながら、要旨をまとめる際に大事だと感じるところにマーカーを引く。(1人1台端末 全文シート) 7 小見出しを共有・確認する。(全体) 8 文章の構成を捉える。 ・文章構成図をつくる。(個人)(ワークシート)	文章の中心的な部分と付加的な部分に着目して要旨を捉える力 9 個々の文章構成図を見合い、それぞれの考えを交流する。(グループ) 10 自分の文章構成図を見直す。 11 文章構成図を全体で共有する。 ・文章の構成について説明し合う。 12 本時の振り返りを行う。 既習事項 〇評価方法 知識・技能 仮説、検証と結論など、情報と情報との関係について理解し、ワークシートにまとめていく。 〇ワークシート	学習したことを基に、自分の考えを確かめる力 13 文章の中心的な部分と付加的な部分に着目して要旨を捉える。 ・全文シートのマーカー部が、要旨をまとめるうえで必要か、また必要な部分を消していきながら、要旨を捉える。(個人、グループ)(1人1台端末) 14 グループで考えたことを共有する。(全体) 15 自分の全文シートを見直す。(個人) 16 本時の振り返りを行う。 既習事項 〇評価方法 思考・判断・表現(C(1)ア) 筆者の仮説に対する検証内容や検証結果と筆者の考えとの関係などについて叙述を基に捉え、要旨をまとめている。 〇Google ドキュメント

協議の視点: 生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせながら思考できる単元構想になっているか。

- 説明的な文章での既習事項を想起させ、生徒がこれまでの学びを活用しながら文章を読んでいけるように単元導入を工夫してはどうか。
- 全文シートのマーカー部を共有させる際、マーカー部の相違点に着目させ、マーカーを付けた理由を出し合わせてはどうか。
- 段落相互の関係を捉えさせたいのであれば、形式段落一つ一つに小見出しを付ける必要はないのではないか。内容や大きな意味のまとまりで文章を捉える読ませ方をするとよいのではないか。
- 文章構成図を作るだけでなく、作ったものを使って、中心的な部分と付加的な部分を大まかに捉えさせるなど、本時まで、また本時以降の一つ一つの学習活動を意図的に仕組み、毎時間の学びをつなげていけるようにするとよい。

リフレクションシートより

教材研究会

- 説明的文章を扱う際の思考ツール(文章構成図)の活用の仕方などが参考になった。
- ICTの効果的な活用に悩んでいたのが、表示した学習材に生徒が書き込みをしていく方法が参考になった。
- 改めて要旨、要約とは何か、中心的な部分と付加的な部分とはなどについて明確にし、学習材を通して具体的にしていけることが大切だと感じた。
- 付けさせたい力に応じた言語活動の設定や単元における学習活動の目的を明確にすることを心がけたい。

授業研究会

- ICTの活用について、マーカーを付けた箇所が比較しやすく、考えの共有という点で効果的であった。
- 学習活動のプロセスを通して力を付けることができる単元づくりについて学ぶことができた。
- 魅力ある言語活動や課題設定、国語の本質やおもしろさを生徒が感じられるような授業づくりを目指して取り組みたい。

授業研究会② 12月13日

構造と内容の把握			
学習の見通しをもつ力 1 本文を通読する。 ・題名に着目させたりシジュウカラの鳴き声(二次元コード)を聞かせたりして本文を読む目的を明確にしておく。 2 初読で捉えた要旨を発表し合う。 3 学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ・文章の要旨を分かりやすく説明することを確認する。 4 要旨を捉えるために文章を読む際、着目するとよい点について考える。 ・既習事項を想起させる。 5 本時の振り返りを行う。	段落の役割や段落どうしの関係に着目して、文章の構造を捉える力 6 文章の構成を捉える。 ・文章構成図をつくる。(個人) ・個々の文章構成図を見合い、それぞれの考えを交流する。(グループ) 7 自分の文章構成図を見直す。 8 文章構成図を全体で共有する。 9 本時の振り返りを行う。	文章の中心的な部分と付加的な部分に着目して要旨を捉える力 10 要旨を説明するために必要な中心的な部分と付加的な部分の関係を色で示す。(文章構成図) 11 要旨を説明するために必要な部分にマーカーを引く。 ・中心的な部分と付加的な部分の関係を色で示す。(文章構成図) 12 本時の振り返りを行う。	学習したことを基に、自分の考えを確かめる力 13 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係に着目して要旨を把握する。 ・全文シートのマーカー部について、マーカーを引いた理由を説明し、要旨を説明する際に必要かどうかを文章構成図も活用しながら考える。(1人1台端末) 14 各グループで考えたことを共有する。(全体) 15 自分の全文シートを見直す。(個人) 16 本時の振り返りを行う。 既習事項 〇評価方法 主体的に学習に取り組む態度 全文シートのマーカー部をグループでの検討内容や全体での共有内容を基に確認したり修正したりしようとしている。 〇全文シート(Google ドキュメント)、振り返り

教材研究会後の変更点

- 単元導入において、生徒に単元の見通しをもたせたり、単元末に学びの変容を実感させたりするために、既習内容を想起させながら学習材の要旨を出し合わせる。
- 本時まで設定していた各形式段落に小見出しを付けて共有する活動と文章構成図を細かく確認する活動を簡略化する。
- 文章の中心的な部分と付加的な部分の関係を色で示すことで文章全体を俯瞰させる手立てとしたり、本時での思考の際に、より活用しやすいツールとなるようにしたりする。
- 本時において、コメント機能で考えをアウトプットさせ、生徒の思考を視覚化する。

協議の視点: 生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせながら思考し、めあての達成に向かっていたか。

- 文章の中心的な部分と付加的な部分について考えたり悩んだりしながら文章を読む生徒の姿が見られた。生徒の思考を全体で共有し練り合う時間を十分とることができるとよかった。
- 前時までの学習を生かし、文章構成図を用いて各段落の役割や段落相互の関係などを押さえながら、文章の中心的な部分と付加的な部分を読ませるようにさせるとよかったが、生徒は、文章構成図をあまり活用できていなかった。
- 要旨を説明する際、文章のどの部分が必要で、どの部分が必要でないのかの判断は難しい。要旨を誰に説明するのか、またなぜ説明するのか、相手や目的を明確にしておくことが必要であったのではないかと感じた。

授業づくり講座を終えて感じていることは、教材研究の重要性です。授業をするにあたり、資質・能力の育成に向けた教材の活用方法や授業の進め方、めあてとまとめ・振り返りの整合性、使用するワークシート等について教科会や教材研究会で考えていくなかで、一人で考えるだけでは思いつかないアイデアが生まれることが度々ありました。今後も教材研究を大切にしたい授業づくりを行っていききたいと思います。



授業者
沼田 めぐみ 教諭

ICTの活用



文章の中心的な部分にマーカーやコメントを付けさせ、各生徒の「読み」を視覚化する

文章全体を俯瞰した「読み」生徒の「読み」の視覚化

文章の中心的な部分と付加的な部分を捉えながら学習材を読んだり、生徒同士の考えを共有したりする際に、Google ドキュメントを使用。文章全体を俯瞰し、段落相互の関係などに着目しながら中心的な部分だと考える箇所にマーカーを引く。また、マーカーを引いた理由をコメント機能で記す。共有後の思考の変容については、色を変えてマーカーを引く。

教員は、視覚化された個々の「読み」を形成的評価や総括的評価に生かすことができる。生徒は、書いたり消したりといった作業に時間をかけずに思考を整理することができる。

講話より

国語の授業の問題点

学習材を教えるだけで、学習材を通して身に付けさせたい力(例えば、小説の読み方)を育成する指導ができていない。要因として、「活動を行わせるだけで技能を育成することができていない授業」、「多様な考えを許容できない(許容できる問いがない)授業」、「分かりきった課題が多く、子供の意欲を育てていない授業」が挙げられる。

本時の授業について

「意見と事実」は、明確に分けられるが、「中心的な部分と付加的な部分」は読者の読み方によって捉え方は異なる部分がある。要旨をまとめる目的や伝える相手に応じて必要な箇所は変わってくる。要旨を伝える目的や相手を工夫することで、多様な考えを許容できる読みとなる。



東京女子体育大学
田中 洋一 教授